

龍門石窟の保存修復に関する調査研究 陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究 (②セ03-07-2/3)

龍門石窟の保存修復に関する調査研究

目 的

中国龍門石窟の保存に協力するため、龍門石窟研究院との緊密なパートナーシップを構築し、龍門石窟の現状を詳細に調査し、保存修復の方法についての研究と具体的な処置、人材の養成など、多角的で実効的な成果をあげようとするのが、本研究の目的である。平成13年度からの5カ年中長期計画に引き続き、平成18年度からの3年間で実施している。

成 果

1) 人材養成：

今年度は11月19日から12月16日の日程で、龍門石窟研究院保護センター高東亮研究員と李建厚研究員の2名を日本に招聘し、石質文化財の修理技術、撥水材料を塗布した後の効果の評価方法、修理作業終了後の環境のモニタリングなどについて研修を行った。1カ月に及ぶ期間中は、東京文化財研究所保存修復科学センターの研究員のほか、西浦忠輝氏（国土舘大学教授）、沢田正昭氏（国土舘大学教授）、山路康弘氏（別府大学客員研究員）など外部専門家による講義、大阪城石垣修復現場、福島県入水三十三観音摩崖仏、神奈川県箱根石仏などの視察、さらに(株)ぎエトスの海老澤孝雄氏を尾張旭市の同社に訪ねての石造文化財修理技法に関する見学など、豊富な内容による研修を実施した。最後に成果報告書をまとめ、研修を終了した。

2) 研究交流：

平成18年度に短期研修として来日し、同志社大学情報文化学科で地理情報システムGISに関する研修を受けた龍門石窟楊剛亮研究員について、8月26日から9月2日の日程で中国山西省太原市において実施した科学研究費による調査「太行山脈一帯に点在する仏教石窟群の包括的保護計画策定に関する日中共同研究」（研究代表者：岡田健）の共同調査（天龍山石窟）と山西省博物館におけるGISに関する研究会への参加を促し、GIS活用のための実地訓練を行うとともに、山西省の専門家との研究交流を行わせた。

10月11日から13日の日程で、陝西省唐代陵墓の保存修復に関する調査研究(セ03)の一環として西安文物保護修復センターと共同で開催した「石造文化財の保存処理技術に関する研究会—石造文化財の保存修復と展示方法／保存処置に際しての接合部分及び表面の化粧方法」研究会に、龍門石窟研究院に提案し同研究院研究員の参加を促し、研究交流を行わせた。同研究院保護センターの高東亮、楊剛亮の2研究員が参加した。

研究組織

○岡田健、朽津信明、杉崎佐保恵（以上、文化遺産国際協力センター）



東京文化財研究所での研修



GISに関する研究交流

龍門石窟の保存修復に関する調査研究 陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究 (②セ03-07-2/3)

陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究

目 的

東京文化財研究所は財団法人文化財保護・芸術研究助成財団と陝西省文物局の合意により平成16年度から実施されている陝西唐代陵墓石彫像保護修理事業を西安文物保護修復センターと共同で運営実施している。この事業に関連して、唐時代の乾陵、橋陵、順陵に附属する石彫像の保存修理に関して、科学的研究と保存修理作業を行うと共に、石彫像保存地区の保存計画策定の研究を行う。

成 果

平成16年度から4年計画で実施されている「陝西唐代陵墓石彫像保護修理事業」は第1年目に実質2年間を費やしたため、5年目にあたる来年度が最終年度になる。本事業では、創建後1,300年を経て、設置されていた位置が変わったり、大きく破損したり、部分が消失してしまった石彫像について、修復と周辺環境の整備の両面から具体的な保護処理作業が実施されつつある。そのうち、修復に関連して、折断したものをつなぎ合わせ、消失した部分に新たな石材を補うなどの作業において、接続のための材料や技術の選択、また接続面の化粧（表面処理）などについて、研究を進める必要がある。今回はこれらの問題についての研究を行うことを目的として、「石造文化財の保存処理技術に関する研究会—石造文化財の保存修復と展示方法／保存処置に際しての接合部分及び表面の化粧方法」をテーマとし、日中専門家による研究会を開催した。

日中双方の保護修復、地質、考古学などの専門家20人以上が参加し、西安文物保護修復センターの研究員による作業報告と、日本国内のみならず中東などにおいて文化財修理の豊かな経験を持つ海老澤孝雄氏（(株)ぎエトス）の事例報告を聞き、参加者による討論と意見交換を行った。

主催：東京文化財研究所・西安文物保護修復センター、場所：西安文物保護修復センター

日程：2007年10月11日～13日（3日間） 第1日（11日） 乾陵視察

第2日（12日） 研究会

第3日（13日） 秦兵馬俑坑、漢陽陵地下博物館視察

研究会会場：西安文物保護修復センター

研究会参加者：（日本側）岡田健、二神葉子、岩出まゆ（以上、東京文化財研究所）、海老澤孝雄（(株)ぎエトス）、（中国側）陝西省文物局、西安文物保護修復センター、陝西省考古研究院、西北大学文博学院、西安市考古研究所、龍門石窟研究院他

研究会内容：

(1) プロジェクト報告

李衛（西安文物保護修復センター）「順陵石彫像の整備作業について」

甄剛（西安文物保護修復センター）「乾陵西門獅子像の復元修復作業について」

(2) 事例報告

海老澤孝雄「石造文化財の保存修復と展示方法」

海老澤孝雄「保存処置に際しての接合部分及び表面の化粧方法」

(3) 討議

研究組織

○岡田健（文化遺産国際協力センター）